令和３年度 蓮田市総合文化会館運営協議会 議事録

開催日時	令和４年３月１６日（水）午後７時１０分～午後８時３５分
開催場所	ハストピア　多目的ルーム
記　録　者	今井　由美子
出　席　者	委　　員　関口　茂 委　　員　渡邉　陽子 委　　員　江角　時子 委　　員　山田　正恵 委　　員　関根　正昌 委　　員　髙田　康二 委　　員　渡辺　弘 事務局　西山　通夫　教育長 新井　宏典　生涯学習部長 文化スポーツ課　課　長　小野寺　潤 副主幹　山口　昌昭 主　査　今井　由美子
議　　事	資料の確認 ＞次第 ＞資料１　蓮田市総合文化会館運営協議会委員名簿 ＞資料２　蓮田市総合文化会館運営協議会設置要綱 ＞資料３　総合文化会館の運営に関する提議書 ＞資料４　稼働率（平成 28 年度～令和２年度）、（参考）令和３年度 ＞資料 5～9　ハストピア自主事業報告（平成 29 年度～令和３年度） ＞資料 10　ハストピア自主事業計画（案）（令和４年度） ＞資料 11　蓮田市総合文化会館　組織イメージ図（案） ＞資料 12～13　その他資料 ＞別冊　蓮田市総合文化会館管理運営計画 １.開会　小野寺課長 ２.あいさつ　西山教育長 委員の自己紹介、事務局の自己紹介 ３.会長・副会長の選任 会長、副会長あいさつ ４．議事 （事務局） ４ 議題「(1) 蓮田市総合文化会館運営協議会開催までの経緯について」 会議開催までの経緯説明 （委員）　資料３の総合文化会館の運営に関する提議が 2018 年 11 月 18 日に提出されたという報告があったが、これに対して教育長はじめ提議をされた側は何らかの回答、改善策の提出を含めてあったか。 （事務局）　先ほども説明させていただいたが、この時第１回目の会議が開かれた状態であり、本来であれば委員からご意見をいただいたこと、例えば皆様の意見を反映した事業計画の見直しが必要ではないかという意見をいた

		だいているが、新型コロナウイルス等、または、色々な事情により、まだ皆様にお示しできていない状況である。この後、説明させていただくが、事業評価等、事務局で案を作り提議に対する答えになっているかどうか、なるべくお応えできるようなかたちで進めたいと考えている。
	（教育長）	直接、杉山会長からお話をうかがっている。7 項目のうち、1 番については説明したとおり、2 番は、業務委託している業者と詰めている、サポーターズへの研修会をやってほしい、研修会をすることで素人であっても色々な運営に携われる人が出てくるであろうということで、実際に働きかけてコロナで閉じている間でも一緒に協議するようなメンバーを作ってくれとお願いをして動き出しているところである。 3 番は、事務局の体制は市長部局なので、秘書課へお願いをした。人数を増やすことについてはなかなかできないが、スタッフについては配置していただいたと思っている。 4 番は、ここにおいでの方々のご意見を頂戴するのが一番と思っている。また、そういうかたちで進めていくと杉山さんにはお話をした。残念ながらコロナでできなかったのが実情である。 5 番の広報手段は、ホームページを立ち上げている。さらに広げていくという結論に達している。市では各部門で独自にホームページを作れない状況、担当部局に対して教育委員会独自のホームページを作らせてほしいとお願いしている。サーバーは確保して、ホームページを作ることについては、セキュリテイの問題、ガバナンスの問題が解消されていない、現在、詰めているところである。それができればさらにもっと広報手段が充実するものと思っている。 7 番は、今日お話があるものと思っている。6 番はまだこれからという段階である。お話をいただいてから、詰められるものは詰めてやっていこうということでやっている。そのようなところでそれしか進んでいないというのが実情である。
	（事務局）	
		4　議題「(2) ハストピアの運営状況について」資料説明 設楽委員からの FAX 内容紹介
	（委員）	資料４（９頁）の評価の部分、経費や指標については、件数、人数、使用料は目標値化されていたのか。それとも何か数的目標があってその評価になるのか。
	（事務局）	数値的な目標は考えていない。利用の評価をするにあたって何か一定の指標があったほうがよいとは考えている。
	（委員）	コロナで、目標値化するのはなかなか難しいと思うが、前年比で見るのか、コロナを意識した定量目標があればもう少し評価しやすくなると思う。
	（事務局）	今後、運営の状況について、直営でいくのか、指定管理がいいのかを含め平成 31 年に一定の中間報告を出すと管理運営計画の中には入っていた。 コロナの関係でなかなか数字的にも、資料 4 で、令和 2 年度では利用人数 9565 人、元年度は 65261 人、30 年度は 74707 人で、なかなか指標自体の設定が難しい状況である。少なくともここ数年、同じような形で統計をとり過去コロナ前のものと比較していき今後の指標等を改めて目標設定していく。
	（委員）	根本的な課題なのか、民間の立場ではそれだけではないでしょうという声もあがると思う。まず収支で赤字続きで普通にやったら民間は潰れてしまう。コロナの状況は別として、指標を早急に、貸館は別で数値目標は立つと思う。どきどきホールについては、仮に、高島ちさ子さんが来

		て満員になっても赤字だという事業は、そもそもやるべきか。出演者のランク、人気度を下げ、満員になってトントンになるというところで、アーティストの選定をしよう、色々なところで基準は定められないことはない。市民に楽しんでもらうという目的は変わらないが、高嶋ちさ子さんでなくてもこのくらいのレベルは市民に感動してもらえるのではというところを模索する努力は必要である。渋沢栄一ではないが、人のためになるか、地域のためになるか、なおかつ、やる側の利益も生んでいるかどうかというところで、収支を頭に入れながらアーティストの選定をするべきである。指標なりを早急に組み立てる必要があり、土台を作って、こうであるがどうですかと諮る場として、運営協議会が機能していくとよいのではないか。
	（事務局）	行政だと、収入と支出が全く連動していないわけではないが、なかなか収入の部分に目がいかなくなってしまっている。収入に見合った支出、お互いに補完するべきものがあったほうがよいとのご指摘だが、例えば今年度、五条院凌さんのコンサートは、チケット代金と出演料については収支が合うような形で料金設定をさせていただいている。満席になったときには、支出として出演料等々お支払いするものとほぼ同額程度で計算している。料金設定について、チケット代金が大きく関わってくるので、このクラスの方を呼んだ時にはチケット代金がどれくらいのものが妥当であるのか、満席になったときには利益が出ればよいが、直営の貸館としてせめて同額くらいの支出収入が見込まれるものということで今後、料金設定を考えさせていただきたい。指標については内部で検討して皆様に諮っていきたい。
	（委員）	収入のほうが多いのはファミリーコンサート、秋のコンサートなど、市の人達が参加するものが黒字、呼んできた方が赤字というのはどういうことだろう、市民が望んでいるのは、参加できるようなものを望んでいるのか、どのように考えているのか。
	（事務局）	お金もそうかかっていないものですが、こちらのコンサートは演奏家協会のご協力をいただいているものである。
	（委員）	収支だけで考えると、委員のおっしゃるとおりである。ただ、それだけで年間通じてやっていくと、あまりにも地味である。テレビに出るような演奏家なり、芸人さんをじかに蓮田で見れる楽しみを与えるというのも、一つの使命ではないか。そこは赤字覚悟でやるのか、必ずトントンまでもっていくために入場券を高くするのか、考える必要がある。
	（委員）	全国的に有名なアーティストを年間、何本やる、その間に、失礼な言い方だが出演料は少ないが、質の高い芸術家をやってといった形の経営的な感覚は必要である。渡辺委員さんがいらっしゃるので、例えば、アーティストのレベルとか、例えば春、秋とワンシーズンに１人くらい、きちんとした人を呼びたいが、客席数と質の高さの均衡を図りながら良い人を紹介していただけないかとアドバイスいただくとか、せっかく渡辺委員さんがいらっしゃるのでそういうのを聞いてやったほうがよいと思う。
	（委員）	問題は、どうしたいかという方向性の問題である。 年に１回、高島さん、大谷さんと赤字でも呼びたい人がたくさんいるならやる、片側で、市民が使いたい形で、このフェスティバルみたいなものをやると、バランスの問題である。赤字でもいいものはやるべきである。クラシックでいくのか、ポピュラーでいくのか、何でこんなものやるのだと批判を受けないものをやればいい。片側で教育普及に力をいれたいなら、そこをはっきり打ち出すか、私達は儲けるためにやっているわけではない、いいものを提供するために税金を使うわけで、そこは考え方の問題である。あるいはどうしていきたいのか、私達が言っていか

	なければならないのかもしれないが。 （委員）　サポーターズの活動はどうなっているのか気になっていて、そこを大きく膨らますとすればサポーターズの活動は欠かせない。文化を総合してプログラムを作るということになると、1年ぐらいの時間ではどうにもならない。何年か先を考えていかないといけない。 （会長）　評価のところ、達成度は、宿題か。 （事務局）　今日お示ししたのは、案で、このような形で事業の報告、評価をいただき次年度の事業計画に反映させていきたい。本日、評価いただくということではなく、提案である。 （委員）　貸館については、会館付きの技術者はいるのか。 （事務局）　いる。 （委員）　委託か、どの程度助けてあげているのか。絶対市民の方の評価は違う。 （事務局）　ホールの運営に関しては、ＰＡＣという委託業者にすべてお願いしている。打ち合わせから全ておまかせしている。 （委員）　市民からの声、丁寧にやってくれる、教えてくれる、手伝ってくれているという評価は貸館には大事、音響、照明は特に大変で、その辺はどうされているのか、チェックしているのか。貸館の場合はその評価を市民から取らないと。私は県から言われ、その辺の満足度を全部つけさせられている。借りている市民の方たちからアンケートを全部とっている。そうすると、ここがこうである、ここを手伝ってくれる、ここが使いにくいとなるので、それで、直していく。貸館は特に、市民が一番、気を付けないとならない。 （事務局）　ＰＡＣが担当した事業の中でアンケートは実施しているようだが、私共から、ＰＡＣに対してのアンケートは行っていない。 （事務局） 4　議題「(3) 移動販売車（キッチンカー）等の出店料について」資料説明 （委員）　キッチンカーは外か、中も含めてなのか。 （事務局）　中でお弁当等を販売していただくことも考え設定させていただきたいと考えている。会館側の自主事業でお願いする場合は減免制度で無料を考えている。 （委員）　今までに民間の人から要望はあったのか。 （事務局）　特に業者の方から出店したいという話はうかがっていない。議会の一般質問等で、周りに食事をするところがない、一日がかりになってしまうイベントの時に、お昼を取るところがないということで質問等をいただいており、キッチンカーを含めた飲食店を誘致できないかということで、検討させていただいている。 （委員）　確認ですが、3番の近隣の公共施設の有料駐車場として、春日部市文化会館駐車場、県民活動総合センターとあるが、これは駐車場の料金の資料なのか。それとも、キッチンカーを出店した時の出店料の料金なのか。 （事務局）　駐車場の料金です。 （委員）　キッチンカーの出店料という名目でいくらにしているのかというヒアリングはしていないのか。 （事務局）　インターネット等で近隣の施設等でキッチンカーを調べたが、該当がない。 （委員）　私は前職がキッチンカーの運営をやっていたが、値段自体は安いと思う。結局、何人来るイベントを開催するか、売り上げがどのくらいたつかというのがベースになった考え方なので飲食でいうと、おそらく1500円程度であれば場所代として5%未満に抑えられたらキッチンカーをやってくれる人であったら全然来てくれる。こういう低料金の設定は非常に

		イベントを盛り上げてくれると思うので、非常に良い。
	（事務局）	キッチンカーの出店料を計算するときに、駐車場2台分くらいはキッチンカーとして1日使うのではないかと考え、1日2台分の駐車場のスペースをお貸しした時にいくらぐらいが妥当なのか、こちら側が強くお願いする部分でもあるのが多いので、このような料金設定にさせていただいている。今後は、イベントがある時とない時で当然収支が関わってくると思うので、こちらでイベント情報を、定期的に何人くらい参加するようなイベントがいつあるかということを公開させていただき、その中で出店していただく事業者さんを募っていきたい。市の商工会とも話を進め、情報をお出しして、どういった方がイベントにいらしていただけそうなのか連携していくように考えている。
	（委員）	やさしさいきいきフェスティバルの時にキッチンカーが出店していたと思うが、その資料はないのか。
	（事務局）	以前にこちらの会場を中心としてイベントをやっていただいた時に、ハストピアの中でも出店をしていただいたという経緯は過去の資料にある。その時は市の方でイベントがあるので出店していただけないかと市内事業者にお声がけして出店料は無料でいらしていただいている。ただ、通年を通してキッチンカーを有料なり、無料なりで来ていただいたというよりはそのイベントのためだけに来ていただいて無料で場所をお貸ししたという経緯である。
	（会長）	業者がこれに応じて、出店しようと思うかどうかわからないが、決まりは作っておこうということですか。
	（事務局）	料金を定める、市の条例で決まっているものを使い、これから決裁をとって定めるにあたって、運営協議会委員の皆様のご意見を賜り、妥当な金額を設定するということで、急きょ、議題として挙げさせていただいている。
	（会長）	一般的にみると安い方という意見ですので、その辺を勘案して案を作っていただきたい。
		5 その他　今後の運営協議会の在り方について、ご審議いただきたい内容（案）についての説明
	（事務局）	22頁資料11は、蓮田市総合文化会館の組織イメージ図（案）になる。下の図は、参考として、ハストピアを作るときに住民参加型の運営方法など視察させていただいた、茨木県小美玉市の資料になる。 24頁は、ハストピアが平成28年から運営されている中で、どきどきホールの料金設定などを含めた、全体の見直しについてのご意見を次年度いただきたいと考えている。 25頁資料13は、今後の運営協議会のスケジュールであるが、基本的には年間２回の開催を最低でも考えている。１回目は、次年度予算編成の前に、２回目は通年事業であるので3月で検証していく。
	（会長）	次回の会議日程については、大体いつ頃か。
	（事務局）	令和５年度の予算編成の前に、一度お集まりいただきたいと考えている。
	（委員）	例規改定は来年度やるのか。
	（事務局）	料金改定については、必要かどうかを含めて、じっくり検討していかなければいけないと考えている。次年度で全て答えを出すということではなく、例として、こういったご意見をいただいているということで、その辺を整理して委員の皆様にお諮りしていきたいと考えている。
	（委員）	どうせなら、早くやって市民に還元した方良い。来年度くらいに、多分直せると思う。
	（事務局）	今のご意見で、２回と申し上げたのですが、例えば、料金改定等が絡ん

	でくるものに関しては、もう少し会議の回数を年間で出させていただき、皆様のご意見をいただくこともあるかと思う。よろしくお願いしたい。 ５．閉会